

教育研究業績

2026年 5月 1日

氏名 森川 奈緒美

研究分野	学位
看護教育	看護学修士

研究のキーワード

看護コミュニケーション、臨床判断能力、社会人基礎力

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概 要
<p>〈教育方法の実践例〉</p> <p>看護コミュニケーションスキル教育</p> <p>成人看護学演習 PBLによる看護過程の展開</p> <p>成人看護学急性期実習 SIM教育実践</p> <p>成人看護学演習教材「ストーマモデル」の開発</p> <p>成人看護学演習 ナーシングスキルの活用と看護技術動画作成</p> <p>実習事前学習用「夏休みの友」作成</p> <p>成人看護学急性期SIMアウトライン</p>	<p>2009年 4月1日～</p> <p>2011年 4月1日～</p> <p>2022年 10月1日～</p> <p>2012年</p> <p>2012年 4月1日～</p> <p>2012年～</p> <p>2022年 10月1日～</p>	<p>看護コミュニケーションスキルの育成プログラムを作成しシミュレーションと表現力を育成するための課題を作成し実践させた。</p> <p>看護過程の展開を教授するにあたりPBL学習法を用い授業を展開した</p> <p>コロナ禍における臨床実習の補填、実践能力向上のため高機能シミュレータ『シナリオ』とブリーフィングには『ふりかえ朗』を使ったシミュレーション教育を実践した。</p> <p>産学医工連携の一環として業者と提携しストマモデルの開発を行った。</p> <p>『ナーシングスキル』の活用と、技術動画をオリジナルで作成（喀痰吸引、創傷処置、ストマケア、フットケア、BLSの5項目）した。</p> <p>実習に付随する教材として作成した。</p> <p>成人看護学急性期実習の教材として、シミュレーションについての教員用のアウトライン(実施要領)を作成した。</p>
<p>〈実務の経験を有する者についての特記事項〉</p> <p>高大連携事業 講師</p> <p>関連病院看護部 最近の大学生の傾向と指導に関する講義</p> <p>関連病院卒後研修への出向</p>	<p>2012年～</p> <p>2018年～</p> <p>2019年～</p>	<p>高大連携事業において、高校2年～3年の生徒（30名程度）に対し、創傷治癒に関する授業（創傷治癒の過程と正しいケアの方法）を行った。高校生が生活上役立つように、切り傷や靴連れ、熱傷に対する正しい治療、過去との違いなどを、高校生のレベルに合わせて講義した。</p> <p>学生指導から新人教育に対する臨床の悩みを中心に臨床からの依頼があった。最近の若者の特徴を知り、OJTや実習指導に役立てたいという目的で企画されたものである。現在の大学生の傾向とその根本にある原因や、実際の指導における留意点や、すぐに役立つよう実践例などを講義した。</p> <p>卒後研修（新人からラダーレベルⅡまで）の研修で、実務指導や知識に関する講義等、依頼に合わせて実施している。指導には学科の教員の出向を呼びかけ、大学から臨床のシームレス化を図ることに貢献した。研修の企画から参加し集合教育、個人指導、実務試験などに関わった。</p>

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

(学術論文) 6年分	著者	発行年月	掲載誌	概要
医療・福祉系大学における一次救命処置に関する意識調査 救命場面を想定した救命行動における推測（原著論文）	共著	2019年3月	国際医療福祉大学学会誌18巻4号（215-219）	入江浩子、森川奈緒美、糸井裕子 医療・福祉系大学学生3827名に対し、想定された救命場面での一次救命処置に対する認識を把握し、教育的示唆を得ることを目的に、無記名による自己記入式質問紙調査を行った。
国内文献にみる看護系大学における教員の課題について（原著論文）	共著	2019年8月	国際医療福祉大学学会誌24巻2号（61-72）	鈴木由美、金子順子、入江浩子、森川奈緒美、松本政人、林圭子、小野崎美幸 国内文献において、看護系大学の教員を対象とした研究を通して看護教員の課題を検討すること。医学中央雑誌刊行会WEB版、CiNii Articlesを用い、キーワード「看護系大学」「看護教員」で80件の文献。

<p>体表下の硬さによる胸骨圧迫の効果の違い 看護大学生の救命演習に向けて (原著論文)</p> <p>(その他) 5年分</p>	共著	2020年12月	日本看護科学学会誌40巻 (1-4)	入江浩子、森川奈緒美、金子順子 体表下の硬さが看護大学生の効果的な胸骨圧迫にどう影響するのかを検証し、教育的示唆を得るため、看護大学生46名に対し、体表下の硬さの違いを床・ベッド上・ベッド上背板使用による胸骨圧迫を行い、圧迫深度、圧迫回数、圧縮の適切な解除率の違いを比較検討した。
<p>国外文献にみる看護教員の職業継続に影響する要因の文献的考察</p>	共著	2019年9月	国際医療福祉大学学会誌24巻抄録号 (56)	入江浩子、森川奈緒美、松本政人、林圭子、小野崎美幸、佐藤聖一、金子順子、鈴木由美 看護教員の定着に関する示唆を得るため、PubMedでnurse educator job satisfaction と nursing facultyのAND検索で過去10年間検索し職業継続、定着及び移動に関する記述がみられたものを抽出し11件を対象に文献内容を検討した。
<p>国外文献にみる看護教員の職務満足に関する研究 Faculty Developmentに関する文献的考察</p>	共著	2019年9月	国際医療福祉大学学会誌24巻抄録号 (59)	森川奈緒美、松本政人、林圭子、小野崎美幸、佐藤聖一、金子順子、鈴木由美、入江浩子 看護教員の職務満足の要因のうち、Faculty Development (FD) に関する国外文献検討を行った。PubMedでnurse educator job satisfaction と nursing facultyのAND検索で過去10年間検索しこれらから看護教員のFDに関する記述がみられた7件を対象に検討した。
<p>体表下の硬さによる心臓マッサージの効果の違い 看護学生の救命演習に向けて</p>	共著	2019年11月	日本看護科学学会学術集会講演集39回 (PA21-4)	入江浩子、森川奈緒美、金子順子 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 看護学生の救命演習における教育的示唆を得ることを目的に、床 上、ベッド上、ベッド上背板使用時における心臓マッサージの効果の違いを比較し、体表下の硬さが心臓 マッサージにどの程度影響するのかを検証した。
<p>先行文献にみる看護系大学の学生における就職活動</p>	共著	2019年11月	日本看護科学学会学術集会講演集39回 (PA25-2)	林圭子、森川奈緒美、鈴木由美、田代恵美 看護系大学の学生の就職活動を概観するために、先行文献を検討した。医学中央雑誌 WEB版にてキーワード「看護学生」と「就職支援」9件、「就労支援」6件、「就職活動」68件で、本研究目的に見合うものみに限定し21件。
<p>看護大学生の効果的な一次救命演習に向けて 性差による胸骨圧迫深度と解除深度の経時的変化の比較</p>	共著	2020年11月	国際医療福祉大学学会誌25巻抄録号 (50)	入江浩子、森川奈緒美、金子順子、松本政人、毛塚良江、蜂谷有加、佐藤純也、小野崎美幸 性差による胸骨圧迫深度と解除深度の経時的変化を比較することによって、看護学生の一次救命演習における教育的示唆を得ることを目的とした。
<p>身体的特徴と体制における胸骨圧迫の比較</p>	共著	2020年12月	日本看護科学学会学術集会講演集40回 (P6-002)	入江浩子、森川奈緒美、金子順子、松本政人、小野崎美幸、蜂谷有加、毛塚良江 身体的特徴と実施体勢が胸骨圧迫効果に関連する のかを比較検討した。
<p>関連病院へのイベント参加が、関連病院への帰属意識に与える効果の検証</p>	共著	2021年11月	国際医療福祉大学学会誌26巻抄録号 (110)	森川奈緒美、林圭子、蜂谷有加、柿沼加奈恵、佐藤純也 実習ではなく病院で何か役割を持つことで、自分が関連病院の一員であることを認識し帰属意識の高まりを期待し、この動機づけが学生の帰属意識に与えた影響についてアンケート調査を実施した。